

第76回全日本新体操選手権大会
男子個人総合2日目レポート（10月28日）

昨日行われた男子個人前半種目は、見ている者を存分に楽しませるハイレベルな争いが繰り広げられた。これから始まる後半種目で今年の個人総合王者が決定する。上位5人が18点を超える争いは一瞬の油断も許されない。最後まで目が離せない展開間違いなしだ！

そして今日は、団体競技もスタートする。予選に参加する16チームの中から上位8チームが決勝に駒を進める。会場には朝から沢山の観客が集まり、眼前で繰り広げられるであろう激闘の行方を見守っている。

団体、個人共に日本最高峰の選手たちが集った大会2日目が始まった！

※上位5選手の登場順番でレポート掲載いたします。

東本 侑也（同志社大学）

クラブ 18.650

上位選手の中でまず一番初めに登場した東本。まずはクラブからだ。「恋人よ」の切ないメロディにのせて体を最大限まで動かし情感たっぷりに演じる。第一タンブリングの着地で少し乱れたが、その後難なく立て直し演技切った。得点も18.650と高得点を獲得した。

ロープ 18.175

優勝するには絶対にミスできない最終種目。ノリのよい曲に合わせて東本が軽快に踊る。止まらない手具操作と正確な投げ受けで会場を沸かせる。多少の手具の乱れはあったものの最後まで勢いのある演技を披露してくれた。あとは他の選手の結果待ちとなった。

4種合計 73.475

森谷祐夢（国士舘大学）

ロープ 17.400

初日トップの森谷、本日最初の種目は痛恨の演技になってしまった。序盤の投げ受けで片方落下し、その後のタンブリングでも着地が乱れた。流れるような手具捌きが魅力の種目であったが表現しきることができなかった。優勝が大きく遠ざかってしまった一本ではあるが、最終種目で意地を見せたい。

クラブ 17.925

最後のクラブで意地を見せたいところであったが、何気ない手具操作でまさかの落下。それ以外の部分ではやり切ったが点数は18点台には届かなかった。初日トップの勢いを維持したかったが残念な後半種目となってしまった。しかしまだ大学3年生。来年度の更なる成長に期待したい

4種目合計 72.225

岩淵緒久斗（青森大学）

ロープ 18.150

堅実に通し切った一本であった。ロープは点数を出すのが難しい種目だ。序盤の投げは連続投げを狙ったが、回転が合わずすぐに切り替えて無理をしなかった。その後、高さのあるタンプリングを武器に終盤まで勢いを切らさず演じ切った。

クラブ 18.700

魂を込めた会心の出来であった。岩淵の魅力とこれまでの新体操にかけてきた時間そのものを1分30秒に濃縮したような素晴らしい演技だった。得点も自身最高の18.700を叩き出しこの種目では東本を上回った。

4種目合計 73.450

尾上達哉（花園大学）

ロープ 17.925

スピード感あるメロディに合わせて疾走感たっぷりにフロアを縦横無尽に駆け回る。途中手具捌き中に手具が乱れて動きが止まってしまったのがもったいなかった。その後は集中力が切れることはなかったが18点まではあと一歩及ばなかった。

クラブ 18.375

先ほどの岩淵といい最後の年である4年生達が演技に込める想いが凄まじい。尾上も最終種目で最高の演技を披露した。個性的な音楽の中に散らばるリズムに小気味よく音ハメしていく。その音ハメは、この演技にはこの曲しかないと言わんばかりだ。最後まで世界観を大切にしたい素晴らしい演技であった。

4種目合計 73.125

堀 孝輔（高田 RG）

クラブ 18.400

会心の演技だった。上位選手が崩れる中、完璧な演技を見せてくれた。さすがである。極限の集中力でハイレベルな内容をここまでやり切るところがさすが連覇中のチャンピオンである。最終種目で更なる上位を目指す。

ロープ 18.300

連覇中王者最終種目はロープ。この種目も会心の演技であった。上位陣がロープで苦しむ中、「こうやって通すんだ！」と言わんばかりの気迫の籠った演技を見せつけてくれた。この種目予選トップの18.300を獲得した

4種目合計 73.100

最終順位

- 優勝 東本 侑也（同志社大学） 73.475
- 第2位 岩淵 緒久斗（青森大学） 73.450
- 第3位 尾上 達哉（花園大学） 73.125
- 第4位 堀 孝輔（高田 RG） 73.100
- 第5位 森谷 祐夢（国士舘大学） 72.225

男子個人総合の激戦を制したのは 0.025 の僅差で見事初優勝を勝ち取った東本侑也（同志社大学）であった。やはり 2 日目にドラマがあった。近年男子新体操はルール改正により、高度な演技内容が要求されるが、その反面ミスも出やすい傾向にある。初日上位陣も例外ではなかった。ロープで得点が伸ばせず混戦のなか、初日 3 位の東本が逃げ切った形となった。

そして今大会では高校生以下の選手たちの活躍も目立った。高校 1 年生ながら、第 12 位となった山本響士朗（高田高校）、唯一の中学生選手、村山颯（国士舘中学校/国士舘ジュニア RG）達は大学生が上位を占める中、総合順位でもしっかりと食い込んできていた。

堀の 3 連覇はならなかったが、その要因は若手選手たちの成長が目覚ましかったからだ。

明日は個人決勝。各種目の上位陣たちの競演は見応えある演技目白押しである。

（男子新体操委員会：山田小太郎）